

農業

平成27年12月号
会誌 No. 1606



目次

巻頭言

どうする日本の米づくり……………石塚 虎雄 3

論壇

農業におけるネットワーク組織……………納口るり子 4

農事功績者座談会

施設化による「不知火」(デコボン) 専作経営…………… 6
私の経営と農業への思い……………坂下 巳一 7
現地指導者のコメント……………坂本 等 12
意見交換…………… 13

表彰農家訪問

米沢牛を全国トップブランドに育て上げた立役者……………横内 圀生 24
- 山形県米沢市に伊藤精司さんを訪ねて -

寄稿

植物遺伝資源に関する開発研究と国際動向……………奥野 員敏 33

農業・農村の現場から

「安納いも」で種子島を活性化……………長谷 健 43

世界の農業は今

アメリカのトウモロコシ研究の最前線……………田口 和憲 48

私の経営と志

地域とともに……………岩瀬 和也 55

農政情報

…………… 57

平成27年度農業技術功労賞受賞者…………… 57

大日本農会だより…………… 58

編集部から…………… 58

「農業」年間総目次…………… 59

表紙写真説明

しらぬひ 不知火（デコボン）の収穫（熊本県宇城市しらぬひまち）

果実の果梗部（デコ）の部分が盛り上がっているという特徴のあるミカンの品種名は「しらぬひ」と言う。この品種の名称は、当初、熊本県宇土郡不知火町（現宇城市不知火町）で試験栽培され、この地でその優れた特性が実証されたことに由来する。（他に、不知火海に現れる蟹気楼「しらぬひ」にちなんだという説あり。）

「不知火」は果皮が傷つきやすい形をしているため、完熟期には、ハサミで1個ずつ果実を収穫し、果実のデコの部分が上になるようにコンテナに1段ずつ丁寧に入れ、家庭の貯蔵庫で予措、貯蔵をする。6月まで長期間貯蔵する果実は、Pプラス（鮮度保持資材）による果実個装を行う。

収穫された「不知火」の果実は、最新鋭の非破壊選果機（光センサー選果機）により糖度、酸度、外観、大きさなどの選果基準で選別し、合格した果実のみが「デコボン」（商標登録）として、全国の消費地へ出荷されている。

（熊本県宇城市地域振興局農林部農業普及・振興課 坂本 等）